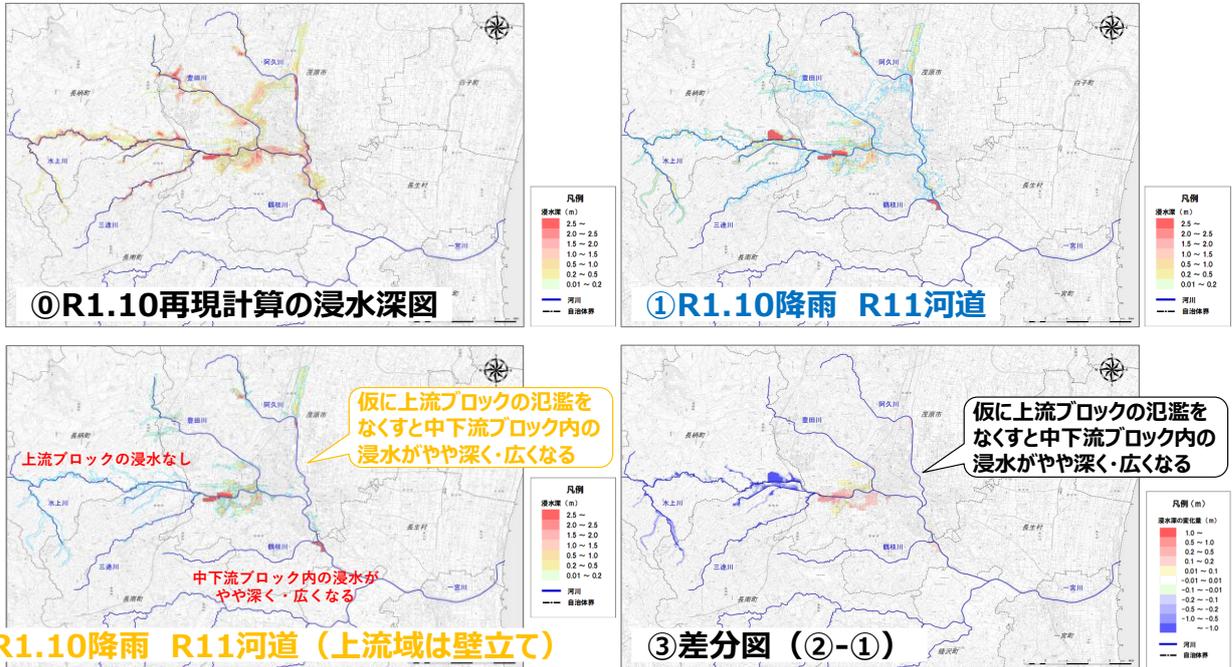


- ① 令和元年降雨に対して、現在進めている河川整備により、流域全体で浸水リスクが低減
- ② ①の補足 上流域で氾濫しない（上流域の貯留なし）場合、中下流域の浸水リスクが増大  
⇒ 上流ブロックの浸水域は、中下流の被害増を防ぐ関係性となっている。



- ① 令和元年降雨に対して、現在進めている河川整備により、流域全体で浸水リスクが低減
- ② ①の補足 上流域で氾濫しない（上流域の貯留なし）場合、中下流域の浸水リスクが増大  
⇒ 上流ブロックの浸水域は、中下流の被害増を防ぐ関係性となっている。

● 上流ブロックと中・下流ブロックは“持ちつ持たれつ”の関係にあり、河川や流域の対策は、流域全体で考える必要がある。

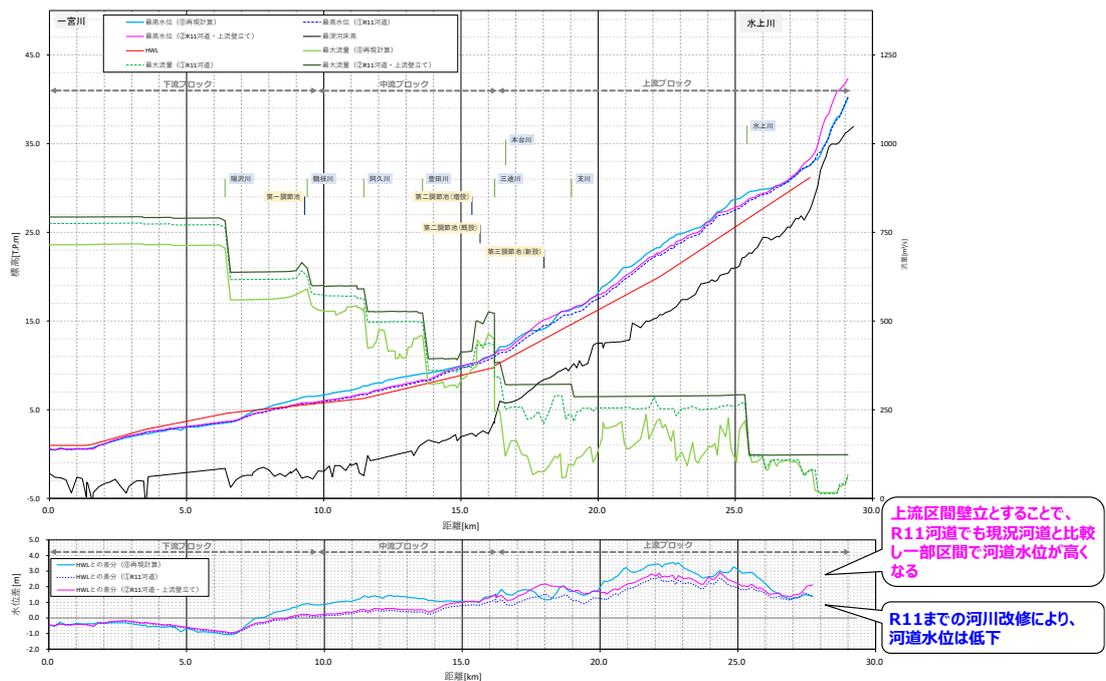
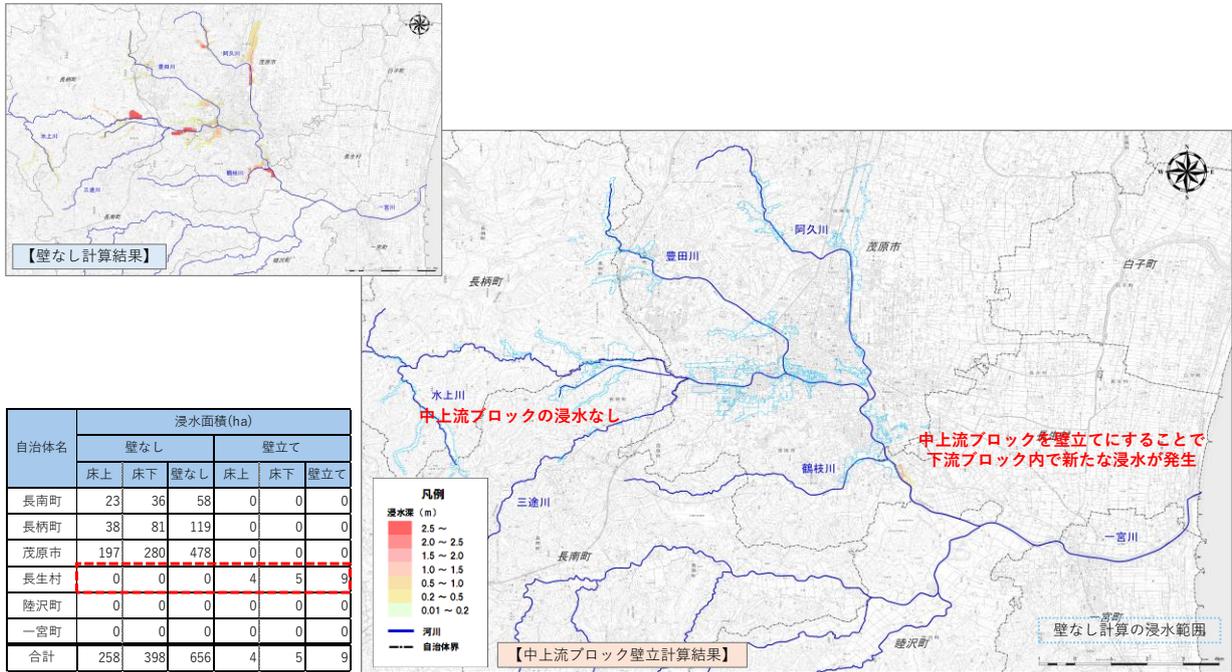


図 6-22 令和元年 10 月降雨による浸水被害リスク

R11時点の残余リスク [R5.9洪水の時の上下流バランス]

- 【R11時点における氾濫の下流への影響：上流・中流ブロックの河川から氾濫しないような条件（壁立て計算）で計算し、R11河道条件と比較】
- ・ R5.9洪水を対象に上流+中流ブロックを壁立てとした氾濫解析を実施



R11時点の残余リスク [R5.9洪水の時の上下流バランス]

- 【R11時点における氾濫の下流への影響：上流・中流ブロックの河川から氾濫しないような条件（壁立て計算）で計算し、R11河道条件と比較】
- ・ R5.9洪水を対象に上流+中流ブロックを壁立てとした氾濫解析を実施
- ⇒ 上・中流ブロックと下流ブロックは“持ちつ持たれつ”の関係にあり、河川や流域の対策は、流域全体で考える必要がある。

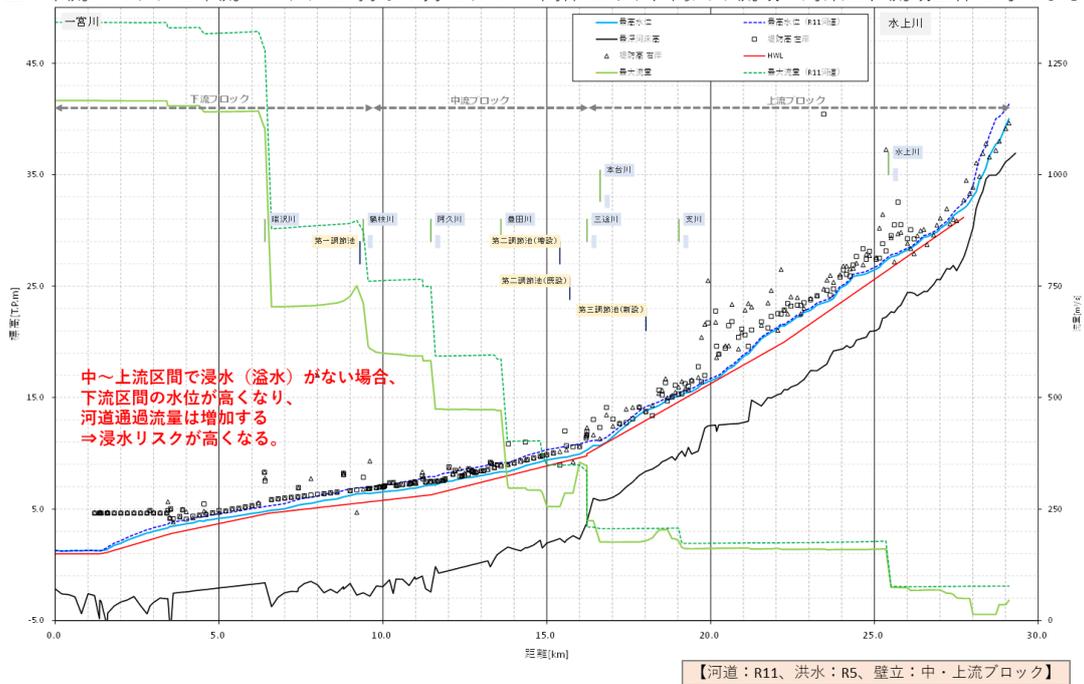


図 6-23 河川整備効果-残余する浸水リスク③”

R11時点の残余リスク [R5.9洪水の時の上下流バランス（破堤）]

- 【R11時点における氾濫の下流への影響：上流・中流ブロックの河川から氾濫しないような条件（壁立て計算）及び下流ブロックは破堤する条件で計算し、R11河道条件と比較】
- ・R5.9洪水を対象に上流+中流ブロックを壁立て、下流は1km間隔で破堤地点設定した氾濫解析を実施
- ⇒上・中流ブロックと下流ブロックは“持ちつ持たれつ”の関係にあり、河川や流域の対策は、流域全体で考える必要がある。

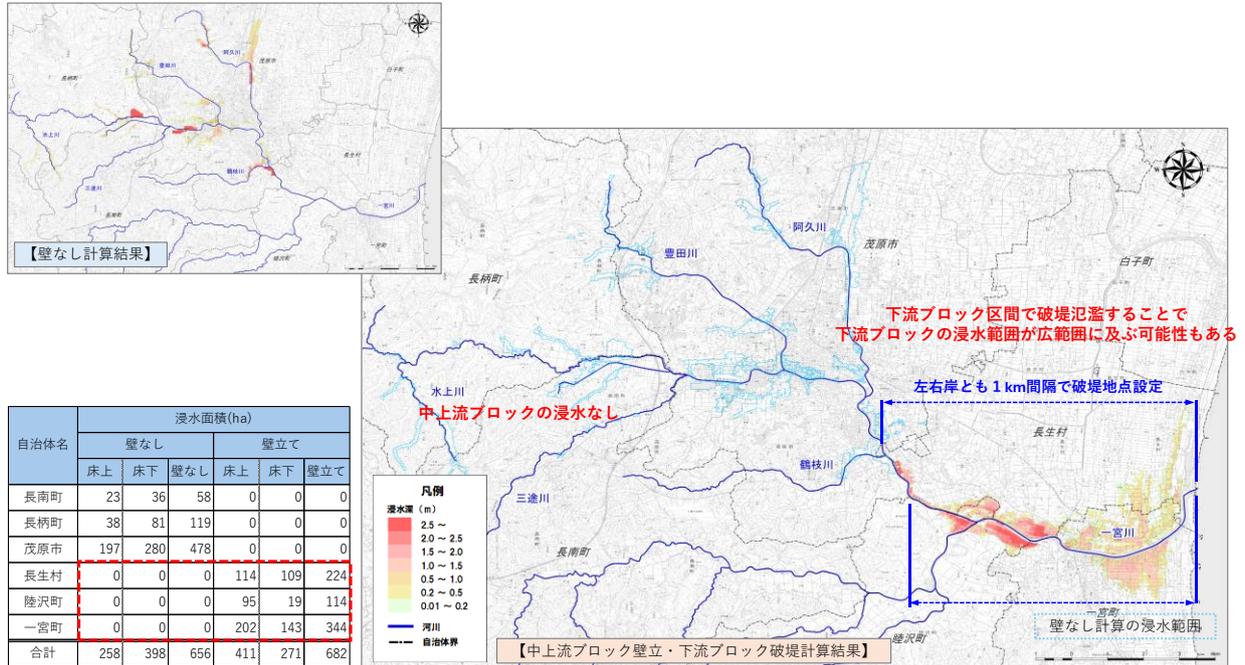


図 6-24 河川整備効果-残余する浸水リスク③”

- 令和5年降雨に対して、現在進めている河川整備により、流域全体※で浸水リスクが低減
- ①のif 中上流域で氾濫しない（中上流域の貯留なし）場合、下流域の浸水リスクが増大
- ①のif 洪水位が計画高水位を超過 → 今次水害を踏まえ、破堤による浸水リスクを考慮

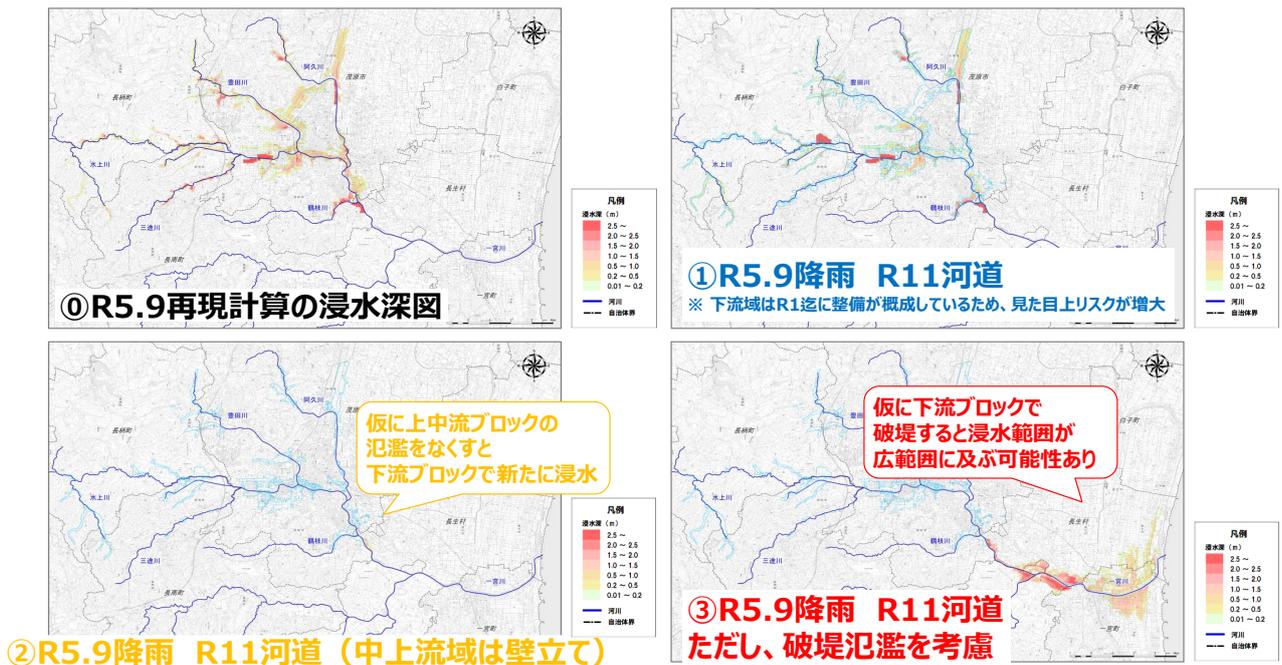


図 6-25 令和5年9月降雨による浸水被害リスク①

- ① 令和5年降雨に対して、現在進めている河川整備により、流域全体※で浸水リスクが低減
- ② ①のif 中上流域で氾濫しない（中上流域の貯留なし）場合、下流域の浸水リスクが増大

● 上流ブロックと中・下流ブロックは“持ちつ持たれつ”の関係にあり、河川や流域の対策は、流域全体で考える必要がある。

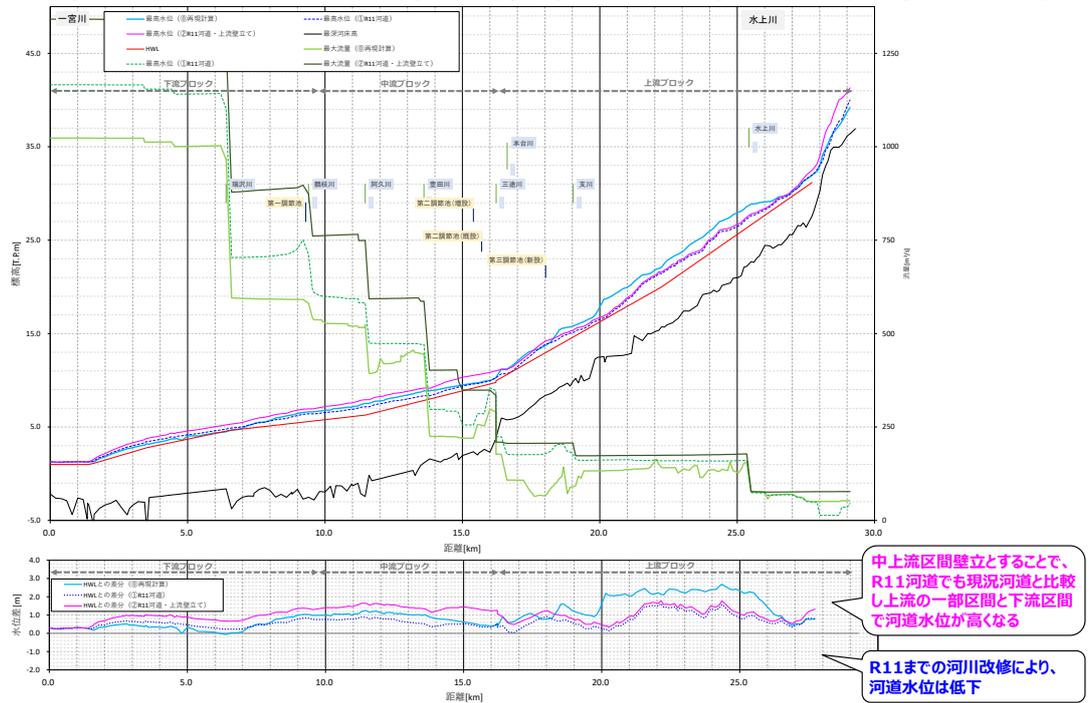


図 6-26 令和 5 年 9 月降雨による浸水被害リスク②

「上流・中流」と「下流」の関係

【R11時点における氾濫の下流への影響：  
上・中流ブロックの河川から氾濫しないような条件（壁立て計算）で計算し、下流は1km間隔で破堤地点設定した氾濫解析と比較】

・R5.9洪水を対象に上・中流ブロックを壁立てとして下流を破堤設定した氾濫解析を実施

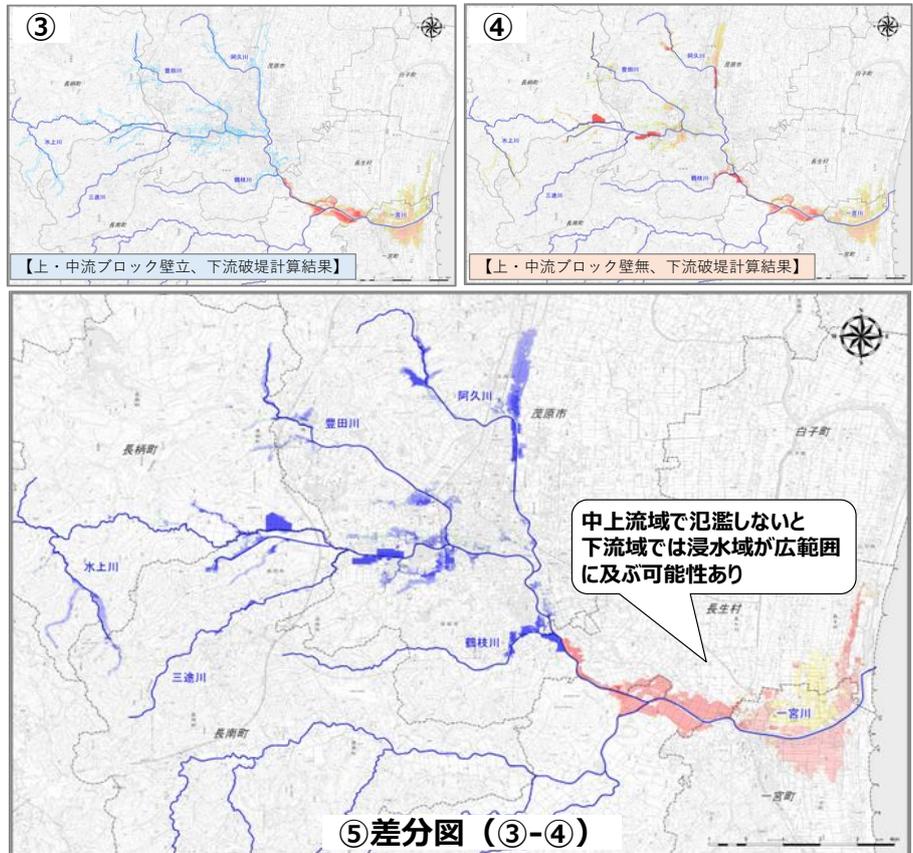
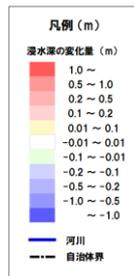


図 6-27 河川整備効果-残余する浸水リスク③”

① 令和5年降雨に対して、現在進めている河川整備により、流域全体※で浸水リスクが低減

② ①のif 中上流域で氾濫しない（中上流域の貯留なし）場合、下流域の浸水リスクが増大

③ ①のif 洪水位が計画高水位を超過 → 今次水害を踏まえ、破堤による浸水リスクを考慮

④ ②のif 中上流域で氾濫しない

+洪水位が計画高水位を超過

→今次水害を踏まえ、破堤による浸水リスクを考慮



図 6-28 令和5年9月降雨による浸水被害リスク